

産地戦略

実施期間 令和5～6年度

実施主体 香川県中讃農業改良普及協議会

都道府県 香川県

対象地域 管内関係市町（琴平町、まんのう町、綾川町）

対象品目 タマネギ、ニンジン、ブロッコリー、トウモロコシ、ナス、オクラ、



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
● 有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

管内では、有機農業に興味を持ち、志向する新規就農者が徐々にではあるが一定増えつつあるものの、全体的に見れば有機農業の取組みや普及は未だ少なく、経営の主体となる品目の選定やそれに伴う栽培体系の確立、知見の集積等是不十分な状況である。

そこで、有機農業の取組拡大を目的に、経営の主体となりうる品目（ニンジン、タマネギ）について、各々の土壌特性や作物に適したグリーンな栽培技術の検証結果及び土づくりに関しての診断結果や夏季品目（トウモロコシ、ナス等）を中心に新たに防蟻灯の導入の効果等を導入マニュアルとして作成・普及していくことにより、さらなる環境にやさしい栽培技術の定着と有機JAS認証取得の拡大を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名													
技術名													



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名													
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	0.78 ▶	1.5	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.78 ▶	1.5	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.78 ▶	1.5	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.78 ▶	1.5	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	堆肥+緑肥による土づくり	緑肥による土づくり	化学肥料使用量ゼロ
環境 省力	土壌燻蒸剤の使用	太陽熱消毒	防除作業の省力化及び農薬の使用量ゼロ
省力	ニンジン：条播+間引き タマネギ：育苗+本圃定植	ニンジン：コート種子による点播 タマネギ：直播	育苗時間の削減（ニンジン、タマネギ） マルチ作業の省力化(タマネギ)

環境 省力	化学農薬による防除+害虫の捕殺	黄色防蛾灯（LED）の導入	防除作業回数の（化学農薬の使用回数）の削減
----------	-----------------	---------------	-----------------------

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学肥料のN成分施肥量（%）	100	0	
環境 省力	化学農薬の使用回数	14 ▶	0	

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

導入マニュアルを基に、「さぬきオーガニック」及び「さぬき有機の里」の定例会、勉強会等で普及・定着を図る。

関係者の役割

関係者名	さぬきオーガニック	香川県中讃農業改良普及センター		
役割	導入マニュアルによる栽培の実践	有機栽培のための栽培技術の指導、導入技術のPR		

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

有機食材の安定供給を確保するため、有機野菜生産農家との連携強化を図る。また、学校給食のメニュー開発においては、有機食材の特性を生かした栄養バランスの取れた献立を提案するとともに、関係機関と連携した食育活動を通じて生徒や保護者への理解促進を行い、持続可能な食生活の重要性を

その他